

課題対応取組み報告書

名称	住之江区地域包括支援センター			
提出日	令和6	年	6	月 17 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域と介護サービス事業所のつながりづくり ～相互理解とそれぞれの強みを活かした連携に向けて～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・地域ケア会議 (個別ケース検討) で最も多い検討課題は「支援者間での情報・支援方針の共有」であり、認知症の人や支援拒否のケースなどでは、地域と支援者や関係機関同士がどのように連携し、見守りをしていくかが課題となっている。 ・地域ケア会議 (自立支援型ケアマネジメント検討会議) では、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントにおいて地域の社会資源の活用・不足が課題となっている。	
対象	地域関係者、介護サービス事業者	
地域特性	地域ケア会議の中で地域関係者より「介護事業者の顔が見えにくい」との声がありH27年度より取り組んできたが、コロナ禍で中止となる地域活動も多く、新設の事業所も増えたことで担当ケースが居住する地域の活動や地域関係者のことをあまり知らないケアマネジャーも多い。 地域活動の活用や民生委員・地域ネットワーク推進員等との連携により、高齢者の自立支援や見守り等の体制強化が必要。	
活動目標	・コロナ禍の中で地域関係者の活動状況が変化し、サービス事業所の新設・閉鎖も生じているため、それぞれの活動や地域の社会資源についてあらためて共有し、高齢者の自立支援・QOL向上につながるケアマネジメントや地域での見守り活動等における円滑な連携につなげる。	
活動内容 (具体的取組み)	・生活支援体制整備事業との共催で「地域×ケアマネ交流会」を開催した。区内の居宅介護支援事業に開催案内し、地域包括支援センター圏域内のあったかネットコーディネーターや生活支援コーディネーターの協力を得て、各地域の特徴的な福祉活動の他、あったかネットコーディネーターの役割や生活支援コーディネーターの活動について紹介。まずは顔の見える関係づくりの機会となるよう、グループワークで地域での活動や支援状況など直接あったかネットコーディネーターと情報交換をしてもらった。 ・平林地域の鍵預かり事業について、居宅介護支援事業者連絡会で地域ネットワーク委員長・あったかネットコーディネーターから周知する機会をつくり、利用への協力が得られるよう働きかけた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	「地域×ケアマネ交流会」終了後のアンケートでは、90%が「大変満足～満足」、95%があったかネットコーディネーターについて知ることが「充分できた～ある程度できた」、90%が地域活動をケアプランに取り入れるなど「利用しようと思った」という回答を得た。 ケアマネジャーからは「全く知らなかった地域活動について知れた」「地域の特性が分かった」「気になる方について相談したい」「利用者の地域での関わりや背景を知る必要があると感じた」「今後も続けて欲しい」等の感想があり、顔の見える関係づくりや社会資源の周知・理解についてある程度の成果があったと考えている。	
今後の課題	あったかネットコーディネーターからは「地域×ケアマネ交流会」実施後の意見として、「つながりづくりの良いきっかけとして、少しずつ積み上げていくことが大事」「いろいろな会議で`連携`が取り上げられることが多いが、現状は手探り状態」「地域活動に参加している方がサービス利用につながった後や、入退院時のケアマネジャーとの情報共有が円滑にできれば良い。個人情報保護の問題もあり難しいか？連絡報告がないと信頼関係につながっていかない。」「サービス利用時以外の普段の見守りは地域が担っていることを分かりやすく説明する必要がある」等、地域とケアマネジャーの関係づくり・連携についての課題があがった。 また「ケアマネジャー側の話聞きたい」、「サービス事業所の特色を知りたい」との意見もあり、地域と介護サービス事業所の相互理解に向けて、今後も取り組んでいく必要がある。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター運営協議	令和6年7月18日 (木)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・色々な地域と開催している、平成27年から継続しているので、地域性、継続性がある。 ・連絡会に入っている事業所に声掛けしたのは良い。	